



## Wonder farmer project 発表

今日は環境学習の専門家として環境カウンセラーの志水先生をお招きしました。今週は発表練習をがんばっていたので、どのグループも大きな声で上手に発表することができていました。

また、練習も本番も、グループ内で協力して取り組むことができていたことに感心しました。どこを読むか分からなくなってしまう子をそっと手伝ったり、顔を見合わせながら一緒に挨拶をしたりと、随所でチームワークを発揮していました。

「協働する力」は、プロジェクト学習で身に付けたい力で、将来必要となる力だと考えているので、今後もグループで協力して活動をしていくことを大切にしていきます。





また、志水先生の環境に関する話は、難しい部分もありましたが、逆に目を輝かせ、何度も頷きながら話を聞く子、たくさんのメモを書き残す子もたくさんいました。授業が終わった後、「あれくらいの難しさじゃないとおもしろくない！」と言い切る子もいました。専門的な話を理解するには、多くの知識と高い意欲が必要ですのでこういった発言があることも、とてもうれしく思いました。

現在の子どもたちは、ショート動画など視聴者を楽しく惹きつけるコンテンツに触れる機会が多いです。私は、今後世界的に「聴くこと」「知ること」についての課題感が増していくと予想しています。一瞬で感じられるおもしろさがないとその話に興味をもてない子、じっくりと深い話を聴くことができない子が増えていくように思うのです。

今回の志水先生の話から、「聴いて学ぶ」ということへのこれまでの学習の成果と今後の課題を感じました。



最後は、2年生が作った畑とその周りに作った生き物のすみかと一緒に見に行きました。「こういう石の段差があると、いろんな生き物が逃げ込めるいいね」「こういう朽ちた木は、これを食べる色んな生き物が来てくれるよ」と言ってもらうと、「私たちが隙間ができるように石を積んだんだよ！」「この朽木はぼくが持ってきたんだよ！」「木の下に蟻がいっぱいいる！卵もある！」とうれしそうに報告してくれました。

これまでのプロジェクトのまとめとなる、とてもよい発表会となりました。